

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171300017		
法人名	社会福祉法人清水福祉会		
事業所名	グループホーム たんぽぽ		
所在地	佐賀県小城市小城町821番地4		
自己評価作成日	平成28年2月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年3月25日	外部評価確定日	平成28年4月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>住み慣れた地域の中で入居者と家族と職員が共に支え合い、本人が持つておられる能力を活かしながら穏やかに暮らすことができる環境づくりに努めています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>交通の便が良い小城の中心地近くの街中に立地するが、神社やお寺・公園などが生活圏にある落ち着いた静かな環境に建つホームである。母体法人グループの介護事業所が集まる広い敷地内の一角、ケアハウス1階部分の一部がグループホームとなっている。入居開始時に、生活が変わった感じがしないような支援を心がけており、本人が慣れ親しんだ言葉を大切にして、本人が選べる環境づくりに努めている。管理者は、家族とのつながりを重要視してケアにあたっている。利用者が安心して暮らせるためには家族の協力が得られることが大切であり、ここに来て良かったと思えるグループホームを目指している。利用者の状態変化に気づきやすく、家族に説明しやすく、職員間での情報共有にも活用できるように介護記録の見直しも進められている。また、夜間の安全・安心のため、1ユニットではあるが夜勤者の他に夜間宿直者を配置して二人体制としており、非常時対応がなされている。より良い介護サービスを提供したいと願う、管理者の向上心が感じられる事業所である。</p>
--

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が必ず出勤時に日を通す「連絡ノート」に事業所の介護理念を記載し、意識づけを行うとともに日々のアクティビティケアへの促しも無理強いせずまた何種類か用意し本人が選択できるようにしている。	思いやりを大切にする法人の理念を基に、地域の一員としてその人らしく生きるための支援をするという事業所理念を作っている。言葉かけに気を配り、優しさを持って心と体をサポートするように心がけており、管理者と職員は日々の業務を通して理念に沿ったケアの確認と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者の体調に変化がない場合などは、職員と一緒に地域のスーパーや商店などに行き馴染みの店員や昔からの知り合いと会話することもある。またアクティビティの一環として事業所周辺のお宮までの散歩や地区清掃に参加している。	管理者は、利用者が安心して暮らし続けるためには地域とのつながりが大切と認識している。地域の清掃活動に積極的に関わる意思を伝えており、草取り作業に参加している。また、地域の人に事業所を知って頂くように努め、できれば利用者と一緒に地区の祭りなどにも参加し、より地域と交流できるような取り組みを検討中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や小城市のボランティア団体の受け入れを行い、まずは近隣の地域住民の方々に認知症という病気についての理解や認知症にかかっている方のご家族に対して相談・助言などを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し報告を行っている。また、そこで出たご意見は一度検討させて頂き、サービス向上の努力をしている。	運営推進会議は地域との接点と捉え、ホームをよく知ってもらう基であると認識している。お互い支え合い、緊急時協力などの関係作りや情報の共有に努めている。今後はより充実した会議となるように、委員の特性や資格を活用した指導・協力を仰ぎたいを願っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の構成員である地域包括支援センターや小城市の高齢障害福祉課、ボランティアコーディネーターを通じ、事業所の実績や提供しているサービスなどの取り組みを伝え、協力関係を築いている。	行政職員が運営推進会議の委員であることから、日頃から協力関係を築いている。問題点や分からないことがあればすぐ相談でき、助言をいただける関係ができています。介護の日に行行政が実施するイベントには介護保険GHのブースを作り、相談員として参加・協力できるよう検討中である。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	それぞれの職員が身体拘束を行わない介護について考えているが、介護指定基準上の身体拘束についての理解は完全ではない。	身体拘束廃止マニュアルがあり、事業所の方針として身体拘束をしない支援に取り組んでいる。職員は身体拘束に関する研修を受けており、利用者に対し精神的な苦痛や言葉による苦痛のない支援を心がけている。玄関をはじめ事業所内の施錠について、安全安心に配慮しながら見直しを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体で高齢者虐待防止法の理解に努めている。また、職員間で注意を払い虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については、まだまだ不十分な部分が多く、今後さまざまな機会(研修など)を通じて、それぞれの職員が学べる機会をつくっていくようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は契約時に契約書、重要事項説明書にて十分な説明を行い不安や疑問がないよう努め、理解・納得を得ている。解約時も同様に説明を行っている。また改正等はその都度書面と重ねて口頭でも説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々コミュニケーションを積極的に取るようにし意見・要望を出しやすい雰囲気を作っている。出た場合はその都度職員に報告し運営に反映させている。また、苦情(相談)申し出窓口及び第三者委員を設け苦情(相談)があった場合はそれらを運営に反映させる準備を行っている。	家族と直接会って話すことが重要だとの考えから、利用料金は持参を原則としている。ケアプランの充実や空気清浄器の購入につなげるなど、出された意見や要望は運営に活かせるように検討がなされている。家族会があり、現状報告も兼ねた意見交換会を年3~4回開催したいと計画している。種々の機会を通して利用者や家族からの意見要望のさらなる把握に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や日々の業務時間などにおいて、職員の意見を伺っているが、まだまだ不十分と感じている。	管理者と職員は普段からよく話し、何でも言える関係ができています。管理者は職員の意見を聞くように心がけ、職員は気付いたことは管理者に伝えるように努めている。洗濯機や備品の購入・記録方法や様式の変更など、出された意見や提案は運営に活かせるように検討がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現状で給与水準や勤務時間についての環境整備は厳しいと言わざるを得ないが、それぞれの職員が役割を持ち、責任をもった取り組みができるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTやOFF-JTの参加をお願いしている。また、■取得を積極的に勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域包括支援センターが主催する地域のグループホーム部会に参加し、さまざまなグループホームの職員との交流を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っている事、不安・要望はしっかりお聞きし安心・安全な生活を確保でき、ここでの仲間づくりができるようご利用者同士の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	特にサービス内容の分かりやすい説明を行い、理解に努めている。その中で関連するサービスの説明も行い、ご家族にも一緒に考えてもらうように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で、現状の把握と情報の整理を行い、当該事業所でのご利用のかたちや他のサービスでの援助のかたちを説明し、他のサービスの援助内容がより良いと思われるたら連絡・調整行う。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で個人個人の出来る事を見出し家事活動等の作業を職員と一緒に自分の役割を持つことで、暮らしを共にする者同士としての関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出や外泊等の支援を行い、本人と家族の絆を大切にしながら家族と職員で「情報共有」し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の話や生活歴、ご家族や馴染みの方からの情報をもとに、同地区・同年代の仲間と一緒に訪ねたり、お墓参りなどに一緒に行くなどの取り組みを少しずつ勧めている。	利用契約時や日々の生活を通して、生活歴や人間関係の把握に努めている。フェイスシートで詳しく書かれた情報を基に、利用者一人ひとりに合った支援につなげている。墓参りや法事など、家族の要望を聞きながら本人が望む支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事活動やレクリエーション等で利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も変わらずこれまでの関係を大切にしながら、必要に応じてフォロー、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の何気ない会話や表情等を踏まえ本人の思いや暮らし方の引き出しを行い、アセスメントやケアプランに反映させ希望・意向の把握に努めている。困難な場合は家族と共に本人本位で検討している。	管理者は職員に、利用者と毎日会話することの大切さを伝え、日々のケアの中から意向を汲み取るように努めている。感じ取った意向や希望は連絡ノートに記入し、職員間での情報の共有につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント作成時に一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等家族やこれまでの担当ケアマネより情報提供を受け把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活歴をもとに、入居後は日々の暮らしの中から一人ひとりの一日の過ごし方、有する能力等の把握に努めている、心身の状態は一日三回のバイタルチェックにて把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	必ずしも意見やアイデアを反映した計画とは言い難いが、日々の取り組みの中で様々なアイデアを実践しながら、継続できるものは継続している。	毎日の個人記録に評価項目欄を入れ、毎日モニタリングができるように記録書式の変更がなされている。本人・家族の希望などを汲み取った具体的な介護計画が立てられており、解決すべき課題や目標・援助内容が分かりやすく書かれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は仕事の証拠と改善に向けての大切な資料になるという認識を職員それぞれに認識してもらっている。しかし、記録に追われてしまわないように心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、様々な情報提供や関わりを検討を行い、既存のサービスの多様化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小城市の地域資源を活用し、入居者様が希望される外出支援を行っていく予定。各個別介護計画にも反映させており、今後も実施しようと思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望に沿ったかかりつけ医と事業所との関係を築くとともに看護職員の雇用、訪問看護ステーションとの契約にて適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者や家族の意向を大切に、利用前からのかかりつけ医の継続受診を基本としているが、緊急時対応を考え事業所の協力医への変更も勧めている。通院は家族の送迎を基本としており、受診結果は適切に説明や報告がなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は日々の情報や気づきを個人の記録に残すと共に看護職員や訪問看護師へ相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人の入院が決定した際、期間や病状などについてご家族や医療機関との情報提供やカンファレンスをおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期ケアどちらに対しても、まだそれぞれのご利用者様やご家族と十分に話ができている。現在は個別の状況に対して事後報告となっている。	事業所として看取りはしない方針である。文書化した指針はないが、契約時に本人及び家族に対し説明している。今後、意思確認と事業所の方針説明のため、重度化や看取りに関して事業所でできることとできないことをまとめた資料の充実を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護ステーションとは24時間の連絡体制が整っている。また訓練はこれから行う予定であるが、同一敷地内にあった母体となる病院が移転したため現在急変時は救急車の出動要請を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	計画に基づき訓練を実施しているが、緊急時に冷静且つ的確に動けるまでには至っていないと考える。今後も繰り返しの訓練と日頃の心構えに努めていく予定。地域との協力体制についても万全とはいえない。	年2回、利用者も参加して自衛消防避難訓練を実施している。夜勤に加え宿直者を1名増員し、夜間の災害に備えている。夜における災害に備え、次回避難訓練は夜間帯に実施を検討中である。災害時には地域住民の協力が必要と考え、地元の消防団に協力依頼を検討している。災害に備えて食料や水を備蓄している。	非常時における地域住民等との連携の必要性については充分認識されていることから、その体制づくりが今後スムーズに進んでいくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩との関わりを基本として意識しているが、人間であるが故の感情の変化のために不適切な言葉が発せられることも事実としてある。言葉とは何かをもっと考えて、一人ひとりのかかわりを持つようにしたい。	個人情報提供同意書があり、契約時に説明している。写真や個人名の取り扱いなど詳細な確認がないため、次回家族会において対応を説明しながら同意を得る予定である。職員は利用者を人生の先輩として敬い、目線を合わせ礼節を持って接することを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で個別の対応を重視し、職員本位の支援ではなく、選択できるサービス提供行いなるべく自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課や時間の区切りはあるが、それぞれの生活リズムを重視している。よって、食事時間がそれぞれズれることもある。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の身支度や外出時等、衣類の選択ができるよう配慮を行い、季節にあったその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。また、理美容に関しては移動美容院や理容ボランティアの利用にて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の好みや食べたいものを聞き職員で作るが、食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの力を活かしながら入居者と職員と一緒に炊事全般を行っている。	献立は1か月単位で立てられるが、手元の食材や利用者の要望で柔軟に変更されている。今後外食や行事食の導入を検討中である。毎月赤飯の日や刺身の日が設けられ、利用者の楽しみにつながっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	不定期になるが、隣接事業所の管理栄養士に献立などのチェックをお願いしている。また、食事形態なども配慮し適宜変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後言葉かけ・誘導・見守りや不十分なところがあれば介助を行い、一人ひとりの能力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	基本的に昼夜問わず「おむつ」の使用はしていない。定期的なトイレ誘導の実施、本人の尿・便意をないがしろにせず適宜排泄の一部介助を行っている。今後は、センター方式を利用するなどして排泄パターンの精度を高めていきたい。	利用者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。時間や態度・様子を見ながら誘導し、トイレで排泄できるように支援している。パッド使用や定期的な誘導など、本人の必要に合わせて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	午前中の水分補給時は全入居者に乳製飲料を提供している。中でも、便秘がちな方には水分補給に加えて身体を動かす機会をつくり、腸の動きの活性化を図っている。一部のご利用者様は排泄チェックを行い、医師処方の排便誘導剤を使用している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の時間や曜日はほぼ決められたもので行っているが、その中でも要望に応じた時間の変更や、入浴に楽しみを感じていただくような言葉かけや支援を行っている。	入浴は隔日が基本で、入浴日以外は清拭やシャワー浴で対応している。浴室は温かみを感じられず、浴槽はゆっくり疲れを癒す設えではないため、浴室の全面改修が近々行われることとなっている。今度はゆったりと落ち着いた雰囲気のある浴室となる予定で、リフトも設置されゆっくり気持ちよく入浴できるようになると期待されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に余暇時間を設けており、思い思いに自室で過ごしたり、リビングのソファや食堂にて入居者同士で会話されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護職員を中心として服薬支援を行っている。確認も記録を行い確実にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	当該事業所への入居前の生活歴や個別介護計画書作成時にご本人またはご家族からの要望をもとに生活レクの一環として家事活動への参加を促している。入居者様方も積極的に自分の役割として自信を持たれて様子見受ける。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人やご家族との協議や相談の中で、法事などの外出支援を行っている。今後も、生活歴や要望に沿って継続していきたいと思う。	母体法人の敷地は広く、近くに神社があるなど、散策するのに適した環境である。現在ホーム前の法人建物を解体中で、跡地に緑地公園が予定されており、完成すれば利用者の憩いの場として活用が期待される。回想法に取り組み、本人・家族・職員が車で懐かしい場所を巡る予定である。また、今後温泉に行くこと等も計画している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	すべてのご利用者様ではないが、食材の買い出しなどの外出時に一緒に買い物をしたりして、金銭管理能力の維持を目指している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙に対しての支援は行っていないが、ご本人から「絵手紙などを用いて、ご家族や仲間への形が残る思い出づくりの企画が持ち上がっているので実行していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間(リビングなど)では、共同で作成した壁面飾りや個人の作品などを展示するとともに、リビングから通して居室窓より見える景色に共同で育てている草花や野菜が見えるように配慮している。	毎朝の清掃時やリネン交換時には窓を開けて換気を心がけている。ホーム内には空気清浄器を複数設置し、空気のおよみが無いよう、また、不快な臭いがないように気を配っている。居間や廊下は適度に落ち着いた明るさであり、明るすぎず暗すぎないようにライトの明るさを調節している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間(リビングなど)では、低ソファースペース、テーブルスペースや玄関スペースに分かれており、それぞれのスペースで同地区・同年代の仲間の方々と集まり「共有」できる話題で談笑されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際やご家族からの要望があった際にはご自宅から馴染みの博多人形や仏壇を持参されている。	居室は広くトイレと洗面台付きで、フローリングの洋室と畳敷きの和室がある。日頃から、自宅で使い慣れた馴染みの品の持ち込みを勧めており、タンスや座椅子・仏壇などが持参されている。写真や人形・ぬいぐるみ・手芸品などでその人らしい居室づくりが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一つひとつの動作の前に、文章ではなく簡単な言葉を用いて説明を行っている。また、当該事業所内はバリアフリーや自室の扉も引き戸となっていること、各居室には一人ひとりのネームプレートを掛けている。今後もより安心してもらえるよう職員やご家族と協議し、配慮していきたいと思う。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない